

2024年1月12日

子どもの預かりサービスの在り方に関する専門委員会
「ここ DE サーチ」の課題について

保育園を考える親の会顧問 普光院亜紀

【全体について】

- ① 画面遷移が遅く、反応しない場合も多々ある。
- ② すべての保育施設が網羅されていない（例 杉並区の保育所は6箇所しか表示されない）
- ③ 最新情報に更新されていない（例 5年以上前の板橋区の保育所の施設長交替が反映されていない）
- ④ 東京都の指導監査結果へのリンクが切れている。

【ベビーシッターの情報について】

- ① 検索画面上では、「施設名・住所・最寄り駅を指定する—東京都」「施設の種別—居宅訪問型保育」という検索条件が可能にもかかわらず、この検索では何もヒットしない。ページ下の「ベビーシッター等の住所が非公表な施設を検索する」というボタンを見つけられれば、それで次に進むことができるが、都道府県を選択して出てきた情報（東京都の場合2581件）をさらに検索することはできない。
- ② ベビーシッター会社を検索するときはどうすればいいのかわからない。
- ③ 検索第一画面でリストが出たあと、そのブロック内をクリックすれば詳細情報が見られることがどこにも説明されていないため、見ないまま終わる閲覧者もいるはず。
- ④ 詳細情報は、自治体によって表示される項目が異なっている。
- ⑤ 検索第一画面のリストでの施設名がマッチングサイト名のみになっている自治体がある（東京都内は氏名が出ているほうが多数であり、望ましい）。ここが、マッチングサイト名になっていて、詳細情報にも氏名等がない場合には、まったく意味のない情報になっている（まれに、設置者名のところに氏名がある場合もある）。
- ⑥ 個人シッターの氏名での検索ができない。
- ⑦ 「施設基本情報」の「設置者（法人格） 個人」という表示がないと、個人シッターであることが判別できないが、その項目がない自治体もある。
- ⑧ 「サービス内容」の「有資格者数（保育士） 0人」という表示が、そのシッターの資格の有無を表している（0人はその資格を有していないという意味）が、そのことが通常の閲覧者にはわからない。「有資格者数（保育士・看護師・家庭的保育者等）」と「研修受講者数（居宅訪問型保育研修・子育て支援員研修・家庭的保育者等研修・その他）」

の両方を表示している自治体もある（千葉県）が、たいていはこの項目がないか、もしくは各種有資格者数のみになっている。

- ⑨ 「その他」もしくは「施設名」のところにマッチングサイト名が記載されている場合が多いが、利用マッチングサイトが不明のシッターもいる。マッチングサイトガイドラインでは、複数のマッチングサイトへの登録を不可としているので、不明なのは困る。
- ⑩ 利用者の立場からは、最低限、自分が利用しようとしているシッターが届出を行なっているか、資格等の有無は本人の申告と合っているか、指導監査は受けているか（問題は指摘されていないか）、マッチングサイトに複数登録していないか、などが調べられることが必要。現在、これらの情報が網羅されていない自治体が多く、また網羅されていても、情報の読み方について説明がないため、利用者が理解できない状態になっている。

【「ここ DE サーチ」の今後について】

現在、国では保育事業の「見える化」に取り組んでいるが、中途半端な状態では誰も見にこないサイトになってしまう。「ここ DE サーチ」は、事業者の事業内容の透明化とともに、利用者のサービス選択、保育者の就職先の選択にも資するものとするのが検討されているはず。そのためには、どんな情報が必要なのか、もう一度精査してほしい。

事業者の負担や自治体の負担に配慮する意見も見られるが、子どもの利益を第一に考え、また多くが国民の税金が注ぎ込まれている公的な制度であることもふまえて、明確な「見える化」へと前進してほしい。

指導監査や第三者評価などの結果の情報公開も推進し、重複する情報は一元化・共有して効率化を測りたい。発生源においても、指導監査の情報開示を第三者評価機関が利用できるようにするなどすれば、第三者評価事業そのものが効率化できる。またそれらの結果を「ここ DE サーチ」に集約することは必須と考える。